

科目名	卒業演習 「あそびと保育者の援助について考えるⅡ」		担当教員	由 田 新		
			担当形態	単独		
テキスト	資料を適宜用意します。	単位数 授業形態	2単位	演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題について問いつづけ、検討することができる。 ・保育者として物的環境を整え、人的環境としてはたらく姿勢をもつ。 ・意図を持ってあそびにかかわることについての理解と姿勢をもつ。 ・自分のあそびへのかかわりを記録し、それを自分なりに「ふりかえる」ことができる。 <p>■授業の概要</p> <p>あそびとあそびに対する保育者の援助について考えます。前期「専門総合演習」での学びを受けて、遊びと保育者の間接的な援助（環境をつくる・自ら環境となること）、そして保育者の直接的な援助について保育現場の見学・保育参加等を通して深めていきます。最終的には、自分の解決すべき課題について卒業レポートにまとめます。</p> <p>受講者同士の話し合いを重視します。積極的に取り組む姿勢をもつことを望みます。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 フィールドワークへ向けて／学びの計画づくり 第2回 フィールドワーク① 第3回 フィールドワーク振り返り 第4回 フィールドワーク② 第5回 フィールドワーク振り返り 第6回 フィールドワーク③ 第7回 フィールドワーク振り返り 第8回 フィールドワーク④ 第9回 フィールドワーク振り返り 第10回 フィールドワーク⑤ 第11回 フィールドワーク振り返り 第12回 フィールドワーク⑥ 第13回 フィールドワーク振り返り 第14回 レポート発表・まとめ 第15回 学びの成果発表会</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に際し、指定された資料を読み、考えをまとめてくること。 ・フィールドに出た際に、子どもの遊びへのかかわりのエピソードをまとめてくること。 ・授業後に、その日の学びを整理すること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークの状況 — 20% ・授業内での話し合いでの発言内容・授業内のレポート — 40% ・卒業レポート — 40% 						
参考文献	「演習 保育内容総論 子どもの生活・環境・遊びに向き合う」萌文書林 「遊びを中心とした保育」萌文書林 「子どもも保育者も笑顔になる！ 遊び保育のための実践ワーク」萌文書林 「遊び保育の実践」ななみ書房		特記事項	フィールドワークにかかる費用等は個人負担となります。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修		幼			
			保			

科目名	卒業演習 「子どもと芸術Ⅱ」		担当教員	明 石 現		
			担当形態	単独		
テキスト	適宜資料を配布する。	単位数 授業形態	2単位	演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標 前期の専門総合演習で見出した課題に対し、実践的芸術表現及び体験を通し、保育に於ける芸術の大切さ、具体的方法を探求し、かつ理解し説明できることを到達目標とする。</p> <p>■授業の概要 前期「専門総合演習」で見出した子どもの育みや社会への芸術的関与を実践的な芸術体験、具体的には手話合唱を軸とした「福祉の音プロジェクト」、水俣でのゼミ合宿、並びにフィールドワーク「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」等を通して、個々の学びの定着を図る。</p> <p>■授業計画 第1回 「福祉の音プロジェクト」(手話合唱) 第2回 水俣ゼミ合宿① 第3回 水俣ゼミ合宿② 第4回 水俣ゼミ合宿③ 第5回 フィールドワーク①事前学習 第6回 フィールドワーク① 第7回 フィールドワーク①振り返り 第8回 フィールドワーク②事前学習 第9回 フィールドワーク② 第10回 フィールドワーク②振り返り 第12回 卒業レポート作成・まとめ① 第13回 卒業レポート作成・まとめ② 第14回 卒業レポート作成・まとめ③ 第15回 学びの成果発表会</p> <p>■準備学習 ・指示した課題を期限内に行うこと。 ・フィールドワークにおける事前学習等、円滑なグループワークの準備、自己練習に取り組むこと。</p> <p>■評価方法 ・授業への参加、取り組み姿勢 — 60% ・卒業レポート — 40%</p>						
参考文献	特になし。		特記事項	・水俣ゼミ合宿4～5万円程度。その他フィールドワークの入館料、交通費等、各自負担。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修		幼			
			保			

科目名	卒業演習 「保育記録を読み、保育記録を書く」		担当教員	深 谷 ベルタ		
			担当形態	単独		
テキスト	特になし。	単位数 授業形態	2単位	演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人として必要となる基礎的・汎用的能力とされる言葉の力を育成するため、前期の専門総合演習で見出した自らの課題に取り組み、分析し、検討をすることができる。 <p>■授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な保育記録を事前に読み、授業時間にディスカッションしたり検討したりする。 ・自分の保育（実習）記録を読み、再検討する。 ・フィールドワークに出掛け、再度記録することに取り組み、検討した上で課題を見つける。 <p>■授業概要</p> <p>前期の専門総合演習では言葉を楽しみながら語彙を増やし、語感を磨き、書き方のパターンがある文章を自らも作成することに取り組みました。</p> <p>後期においては卒業する目標に向けて、保育記録を読み、保育記録を書くことを通して、専門となる保育をテーマとする記録やテキストと向き合うこととなります。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 保育記録を読み検討する①</p> <p>第2回 保育記録を読み検討する②</p> <p>第3回 保育記録を読み検討する③</p> <p>第4回 保育記録を読み検討する④</p> <p>第5回 記録を読んで学んだことをまとめる</p> <p>第6回 自分の記録を読み、検討する①</p> <p>第7回 自分の記録を読み、検討する②</p> <p>第8回 フィールドワークに出て記録する①</p> <p>第9回 フィールドワークに出て記録する②</p> <p>第10回 卒業レポートの課題を見つける</p> <p>第11回 卒業レポートの課題を発表し、教員と相談する</p> <p>第12回 卒業レポートを作成する①</p> <p>第13回 卒業レポートを作成する②</p> <p>第14回 卒業レポート及びグループ発表を仕上げる</p> <p>第15回 学びの成果発表会で発表する</p> <p>■準備学習</p> <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業レポート — 40% ・取り組みの姿勢（関心、意欲、態度） — 60% 						
参考文献		特記事項				
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修		幼			
			保			

科目名	卒業演習 「家族理解のためのアセスメント・応用編」		担当教員	佐藤隆司		
			担当形態	単独		
テキスト	必要に応じて資料配布。	単位数 授業形態	2単位	演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族理解、家族問題解決のためのツールとケースカンファレンスの方法などを理解して実践できる。 ・児童相談所と市町村児童家庭相談窓口の機能と役割を理解する。 ・専門総合演習による基礎知識と各自課題とした内容を鮮明にするため、フィールドワークなどを通して分析・検討して専門職の「礎」とする。 <p>■授業の概要</p> <p>現在の福祉・教育現場の相談（援助）の内容は非常に複雑困難化しており、繰り返し、繰り返し事例を検討して幅広く家族問題解決のための視点を習得する。また、保育士、幼稚園教諭として就職した際“即使える” 具体的、実効的、実践的、実務的技術の獲得を目指す。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 事例（虐待、非行、親の問題行動、夫婦・家族関係など）検討① 第2回 事例（虐待、非行、親の問題行動、夫婦・家族関係など）検討② 第3回 事例（虐待、非行、親の問題行動、夫婦・家族関係など）検討③ 第4回 事例（虐待、非行、親の問題行動、夫婦・家族関係など）検討④ 第5回 事例（虐待、非行、親の問題行動、夫婦・家族関係など）検討⑤ 第6回 事例（虐待、非行、親の問題行動、夫婦・家族関係など）検討⑥ 第7回 フィールドワーク① 祖父母、親世代の理解 第8回 フィールドワーク② 祖父母、親世代の理解 第9回 ケースカンファレンスの実際① 第10回 ケースカンファレンスの実際② 第11回 ケースカンファレンスの実際③ 第12回 ケースカンファレンスの実際④ 第13回 卒業レポート① 第14回 卒業レポート② 第15回 学びの成果発表会のための整理</p> <p>■準備学習</p> <p>前回授業の復習と次回授業の予習。 「分からない」は「(何が) 分からない」と明確化して授業に取り組むこととする。</p> <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参加（授業中・施設見学などの意欲・態度） — 40% ・卒業レポート（提出期限厳守） — 40% ・課題（提出期限厳守） — 20% 						
参考文献	厚生労働省雇用均等・児童家庭局「児童相談所運営指針」平成28年9月29日改正版 厚生労働省雇用均等・児童家庭局「市町村児童家庭相談援助指針」平成28年10月31日改正版 厚生労働省雇用均等・児童家庭局「子ども虐待対応の手引き」平成25年8月改正版 M・マクゴルドリック＋R・ガーツン＋S・シェレンバーガー著/石川 元＋佐野祐華＋劉イーリン訳「ジェノグラム（家系図）の臨床」ミネルヴァ書房、2009年 早樫一男「対人援助職のためのジェノグラム入門 家族援助と相談援助に役立つツールの活かし方」中央法規、2016年		特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・一部、画像、DVDなどを題材にディスカッションするため授業への積極的発言を期待する。 ・私語・途中退室、電子機器などは使用禁止 		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修		幼			
			保			

科目名	卒業演習 「子育て子育て支援～地域・保護者・子ども・学生それぞれの“育ちあい”を考える～Ⅱ」		担当教員	石井章仁																																		
			担当形態	単独																																		
テキスト	プリント等を配付する。	単位数 授業形態	2単位	演習	開講時期	後期																																
<p>講義概要</p> <p>■到達目標 本授業は、地域で子育てをする全ての家庭に向けた「子育ての支援」のあり方や「組織における自身の良さの発揮」について「計画～実践～評価～改善（PDCA）」の過程から、学ぶことを第1の目的としています。また、自身のこれまでの実習体験やフィールドでの学びと連動させ、良さや課題を発見する目的も持っています。</p> <p>前期「専門総合演習」では、主に実習の振り返りと自身の良さと課題の発見に主軸を置き、後期の本授業では月2～3回、実際に子育て広場を運営していきます。子育て広場の運営に当たっては、「育ちあいのひろばたいむ」で、スタッフに代わって運営を行いたいと考えています。また、その活動をまとめ、「卒業レポート」の作成を課題とします。</p> <p>■授業の概要 保育士の職務は、保護者に代わって子どもを保育する他に、保護者へ育児に関する支援をすることも含まれます。子どもが地域や家庭で豊かに生活することを支援するためには、保護者を決して否定せず、共に成長を喜びながら、保護者自身や家庭に対する個別の援助、集団の援助、地域の子育て家庭への援助を行う必要があります。そのためには、まず、自身が心を開き、人とかかわり、共に学びあい育ち合う必要があります。それをゼミで体験する事から考えていきましょう。</p> <p>①週1回（10：00-16：00）学内の子育て広場「育ちあいのひろばたいむ」において、学生主体で運営を行います。広場を運営しながら、それぞれの良さを伸ばし、課題をカバーしていきます。「計画・実践・評価・改善」の過程を意識し、仲間と「共に働く集団」を組織し、子どもや保護者とかわりを持ちながら、自身の育ちを確認していきます。</p> <p>②自身の実践や実習とのつながりを意識しながら、卒業レポートを作成します。</p> <p>■授業計画</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>第1回</td><td>子育て広場を創る①（計画）</td> <td>第9回</td><td>子育て広場を創る⑨（評価と改善・計画）</td> </tr> <tr> <td>第2回</td><td>子育て広場を創る②（実践と振り返り）</td> <td>第10回</td><td>子育て広場を創る⑩（実践と振り返り）</td> </tr> <tr> <td>第3回</td><td>子育て広場を創る③（評価と改善・計画）</td> <td>第11回</td><td>子育て広場を創る⑪（実践と振り返り）</td> </tr> <tr> <td>第4回</td><td>子育て広場を創る④（実践と振り返り）</td> <td>第12回</td><td>子育て広場を創る⑫（評価と改善）</td> </tr> <tr> <td>第5回</td><td>子育て広場を創る⑤（実践と振り返り）</td> <td>第13回</td><td>広場の運営とまとめレポートの作成①</td> </tr> <tr> <td>第6回</td><td>子育て広場を創る⑥（評価と改善・計画）</td> <td>第14回</td><td>広場の運営とまとめレポートの作成②</td> </tr> <tr> <td>第7回</td><td>子育て広場を創る⑦（実践と振り返り）</td> <td>第15回</td><td>学びの成果発表会</td> </tr> <tr> <td>第8回</td><td>子育て広場を創る⑧（実践と振り返り）</td> <td></td><td></td> </tr> </table> <p>■準備学習 授業時間外に以下の取り組みを行うことがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営に関する準備等。 ・レポートの作成。 ・希望があればゼミ合宿等の集中的な学びの機会。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動への参加 — 60% ・卒業レポート — 40% 							第1回	子育て広場を創る①（計画）	第9回	子育て広場を創る⑨（評価と改善・計画）	第2回	子育て広場を創る②（実践と振り返り）	第10回	子育て広場を創る⑩（実践と振り返り）	第3回	子育て広場を創る③（評価と改善・計画）	第11回	子育て広場を創る⑪（実践と振り返り）	第4回	子育て広場を創る④（実践と振り返り）	第12回	子育て広場を創る⑫（評価と改善）	第5回	子育て広場を創る⑤（実践と振り返り）	第13回	広場の運営とまとめレポートの作成①	第6回	子育て広場を創る⑥（評価と改善・計画）	第14回	広場の運営とまとめレポートの作成②	第7回	子育て広場を創る⑦（実践と振り返り）	第15回	学びの成果発表会	第8回	子育て広場を創る⑧（実践と振り返り）		
第1回	子育て広場を創る①（計画）	第9回	子育て広場を創る⑨（評価と改善・計画）																																			
第2回	子育て広場を創る②（実践と振り返り）	第10回	子育て広場を創る⑩（実践と振り返り）																																			
第3回	子育て広場を創る③（評価と改善・計画）	第11回	子育て広場を創る⑪（実践と振り返り）																																			
第4回	子育て広場を創る④（実践と振り返り）	第12回	子育て広場を創る⑫（評価と改善）																																			
第5回	子育て広場を創る⑤（実践と振り返り）	第13回	広場の運営とまとめレポートの作成①																																			
第6回	子育て広場を創る⑥（評価と改善・計画）	第14回	広場の運営とまとめレポートの作成②																																			
第7回	子育て広場を創る⑦（実践と振り返り）	第15回	学びの成果発表会																																			
第8回	子育て広場を創る⑧（実践と振り返り）																																					
参考文献	授業中に適宜示す。	特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された授業時間内にとどまらず、授業日は終日予定を空けておくようして下さい。特にたいむでの活動は、オープン(朝)からクローズ(夕)までの活動を行うこととなりますので、意欲のある方が望ましいです。 ・また、ご自身のテーマに関わらず、「実践者」としての自分を高めたいと思う方も歓迎します。 																																			
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修	幼																																				
		保																																				

科目名	卒業演習 「保育課程・教育課程論実践演習」		担当教員	小久保 圭一郎		
			担当形態	単独		
テキスト	「最新保育講座5 保育課程・教育課程総論」ミネルヴァ書房	単位数 授業形態	2単位	演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育課程／教育課程論に関する文献を精読し、その内容について説明できる。 ・保育課程／教育課程論に関する文献の内容について、他者と議論できる。 ・リーダブルな保育課程／教育課程論に関するテキスト（教科書）を執筆できる。 ・文献精読、他者との議論、テキスト執筆における課題を探求する。 <p>■授業の概要</p> <p>本演習では、保育課程／教育課程論に関する文献を精読し内容を充分理解した上で、受講生自身でよりリーダブルなテキストを執筆することを目指します。執筆のためには、まず保育原理のテキストに書かれている内容を理解していなければなりません。その理解した内容について、リーダブルな文章を執筆するのです。思想家の内田樹さんによれば、リーダブルな文章というのは「わかりやすい文章」でも「簡単な言葉が使っている文章」のことでもなく「ずっと身体に入ってくる文章」のことです。それは「読者に対する敬意」をどれだけメタ・メッセージに込められるかにかかっています。本演習の目指すところは、つまりそういうことなのです。なお、よりリーダブルなテキストが執筆できるよう、適宜保育現場へのフィールドワークを実施する予定です。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 「保育の基本と計画」を理解し、内容に関するテキストを執筆する 第2回 「指導計画の種類と役割」を理解し、内容に関するテキストを執筆する 第3回 「0、1、2歳児を中心とした保育における計画の考え方」を理解し、内容に関するテキストを執筆する 第4回 「3、4、5歳児を中心とした保育における計画の考え方」を理解し、内容に関するテキストを執筆する 第5回 「小学校における計画との関係」を理解し、内容に関するテキストを執筆する 第6回 「保育における計画の変遷」を理解し、内容に関するテキストを執筆する 第7回 「幼稚園4歳児における日案から週案の作成」を理解し、内容に関するテキストを執筆する 第8回 「保育所3歳児における日案から週案の作成」を理解し、内容に関するテキストを執筆する 第9回 「教育課程の見直し」を理解し、内容に関するテキストを執筆する 第10回 「保育課程の見直し」を理解し、内容に関するテキストを執筆する 第11回 「0、1歳児の指導計画の実際」を理解し、内容に関するテキストを執筆する 第12回 「2歳児の指導計画の実際」を理解し、内容に関するテキストを執筆する 第13回 「3歳児の指導計画の実際」を理解し、内容に関するテキストを執筆する 第14回 「4、5歳児の指導計画の実際」を理解し、内容に関するテキストを執筆する 第15回 演習における学びの成果を発表する</p> <p>■準備学習</p> <p>保育課程／教育課程論に関する文献を精読し、次回の演習までに内容を説明できるようにしておく。</p> <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習課題 — 60% ・卒業レポート — 40% 						
参考文献	特になし。		特記事項	特になし。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修		幼			
			保			

科目名	卒業演習 「音楽表現活動を通して、自らの保育観・表現観をかたちづくる」		担当教員	古山律子		
			担当形態	単独		
テキスト	適宜資料を配布する。	単位数 授業形態	2単位	演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標 乳幼児期にみられる様々な「表現」について学び、考え、専門総合演習で見出した課題についてフィールドワークを行い、分析・検討することができる。幼児を対象とした音楽劇の実演などを通して、豊かな感性や表現する力を身につける。自らの研究関心や問題意識を踏まえた「表現」に関する卒業レポートを作成し、学修の成果をまとめることができる。</p> <p>■授業の概要 本演習では「表現」を手がかりに子どもの世界を理解し、共に生きる保育者・共に表現する保育者とはいかなるものかを探究する。また、幼稚園にて幼児を対象とした音楽表現に関する実践を行い、仲間と企画・準備・実践・反省を繰り返しながら自らが表現者となる体験を重ねていく。さらに、フィールドワークでの様々な体験を検討し、子どもの「表現」に関する考察を深めることを通して、自らの保育観・表現観を広げ、各自の問題意識に応じた卒業レポートを作成する。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 夏に取り組んだ自己課題の発表① 経験をもとに 第2回 夏に取り組んだ自己課題の発表① 文献をもとに 第3回 フィールドワークの実践について 第4回 フィールドワーク① 音楽劇の企画 第5回 フィールドワーク② 音楽劇の準備 第6回 フィールドワーク③ 音楽劇の実践と反省 第7回 フィールドワーク④ 音楽劇の編みなおし 第8回 フィールドワーク⑤ 音楽劇の実践と反省 第9回 卒業レポートの作成手順について 第10回 卒業レポート作成① 自らに問う保育観 第11回 卒業レポート作成② 自らに問う表現観 第12回 卒業レポート作成③ 発表準備 第13回 学びの成果発表会① ゼミ発表の企画 第14回 学びの成果発表会② ゼミ発表の準備 第15回 学びの成果発表会③ ゼミ発表・卒業レポートのまとめ</p> <p>■準備学習 ・次回授業で取り扱うと指示された文献等を事前に読み込んでおくこと。次回授業が音楽表現の実践の場合は、十分な準備をしておくこと。</p> <p>■評価方法 ・授業での取り組み（討議への積極的な参加・発言内容、フィールドワークの準備・実践内容） — 40% ・小レポート — 20% ・卒業レポート — 40%</p>						
参考文献	青木久子「新保育者論子どもに生きる」萌文書林 黒柳徹子「窓ぎわのトットちゃん」講談社 「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省		特記事項	授業内の討論や表現活動に意欲的に参加し、自らの課題を深く掘り下げたレポートを提出すること。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修		幼			
			保			

科目名	卒業演習 「保育における身体表現活動の探求Ⅱ」		担当教員	田 中 葵		
			担当形態	単独		
テキスト	特になし。	単位数 授業形態	2単位	演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験や文献を通して身体表現の特性を理解し、自分なりの見解を持ってその意義を説明することができる。 ・自分から動きを発信する、人から動きを引き出す等、共に表現し合う身体について理解し、説明及び実践することができる。 ・専門総合演習で見出した課題や身体表現を学んで得た視点から、自分の目的や課題に向けて実践（フィールドワーク等）を行い、分析・検討する。 <p>■授業の概要</p> <p>本授業ではさまざまな身体表現の体験を通し、自分の表現の幅を広げると同時に、表現活動について理論と実践の両面から考えていきます。地域の「おゆみ野文化祭」などに参加し、身体表現活動を行いながら、人と人との間にある表現する身体について検討していきます。これらの体験をふりかえりながら、保育における身体表現活動の展開や指導法を検討しながら深め、身体表現活動の意義やそのあり方を自分の言葉と身体で語れること、身体表現から得た視点から自分の目的や課題に向けて取り組むことを目指します。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 表現活動における保育者の役割 第2回 地域における表現活動の意義 第3回 おゆみ野文化祭に向けたダンス創作、練習 第4回 学外フィールドワーク（おゆみの文化祭への参加） 第5回 学外フィールドワーク（おゆみの文化祭への参加） 第6回 フィールドワークのふりかえり 第7回 今までの活動のふりかえり、身体表現の意義とは 第8回 卒業レポート作成及びそれに向けた課題について 第9回 各々の課題に向けた実践① 第10回 各々の課題に向けた実践② 第11回 卒業レポートの作成及び個別面談① 第12回 卒業レポートの作成及び個別面談② 第13回 各卒業レポートの発表① 第14回 各卒業レポートの発表② 第15回 学びの成果発表会</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークや表現活動毎にレポートを提出すること。 ・表現活動に向けた自己練習、グループでの打ち合わせ及び練習をすること。 ・卒業レポートを執筆すること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内及びフィールドワークのレポート — 20% ・授業での取り組み（話し合いや作品創作時の積極的な参加と発言） — 40% ・卒業レポート — 40% 						
参考文献	中村政人「コミュニティ・アートプロジェクト ゼロタテ/絶望をエネルギーに変え、街を再生する」、アートNPOゼロタテ、2013等、随時紹介する。	特記事項	学外学習に伴う交通費及び参加費用は自己負担となる。			
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修	幼				
		保				

科目名	卒業演習 「子育て支援における『表現遊び』を考える」		担当教員	池谷潤子		
			担当形態	単独		
テキスト	特になし。	単位数 授業形態	2単位	演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりの素材を使った表現遊び、わらべうた、身体表現遊びなどを展開できる。 ・子育て支援の場での「表現遊び」について学び、活動の考察をすることにより、自ら実践できる。 ・0歳から3歳の子ども達とその保護者と一緒に楽しむ活動を展開する保育者としての姿勢を身につける。 ・保護者の求める子育て支援における表現活動について理解し説明できる。 <p>■授業の概要</p> <p>子育て支援の場である「育ちあいのひろば たいむ」での「うたとおはなしの広場」を開催した経験を活かして、後期は、わらべうた、手遊び、季節の歌、親子でのからだ遊び、素材を使った表現遊びなど、0歳から3歳の子ども達とその保護者と行える活動を学び、教員や他の学生と一緒に実践することを通して、子育て支援における表現遊びの在り方について考える。また子育て支援の取り組みを学ぶために施設（東京都、千葉市）を訪問する。専門総合演習で見出した課題についてフィールドワーク（たいむでの活動の開催、子育て支援施設の訪問、わらべうたをモチーフにした作品作り）を行い、それぞれの取り組みの中で見える課題について、分析・検討し卒業レポートにまとめる。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション 後期の学びについて自己課題を考える</p> <p>第2回 保育実習Ⅱ、Ⅲのふりかえり</p> <p>第3回 わらべうた、季節の手遊び、季節の歌を学ぶ / 「たいむ」での実践①</p> <p>第4回 素材遊びを体験する（布、紙風船、風船、紙テープ、筒、広告紙など）</p> <p>第5回 「たいむ」での実践②</p> <p>第6回 「たいむ」での実践②のふりかえりと準備</p> <p>第7回 「たいむ」での実践③</p> <p>第8回 「たいむ」での実践③のふりかえり</p> <p>第9回 子育て支援施設の訪問</p> <p>第10回 卒業レポートの作成① / 「たいむ」での実践④</p> <p>第11回 卒業レポートの作成② / オルフ木琴を使って、わらべうたをモチーフにした作品をつくる①</p> <p>第12回 卒業レポートの作成③ / 「たいむ」での実践⑤</p> <p>第13回 卒業レポートの作成④ / オルフ木琴を使って、わらべうたをモチーフにした作品をつくる②</p> <p>第14回 卒業レポートの作成⑤ / 「たいむ」での実践⑥</p> <p>第15回 ゼミ内での卒業レポートの発表</p> <p>第16回 「学びの成果発表会」</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で出された課題について、活動案を考え、準備すること ・「たいむ」での実践について整理し、まとめてくること <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み（ワークショップ、グループ活動への積極的な取り組みや発言内容）— 60% ・卒業レポート — 40% 						
参考文献	星野圭朗、井口太 「子どものための音楽」SCHOTT		特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「たいむ」での活動は、火曜日3限の専門総合演習内（約30分間）を予定している。 ・ゼミ方式の授業で出席や積極的な参加はもちろんのこと、「たいむ」での活動の担当となった場合、責任をもって準備、活動を実施することが求められる。 		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修		幼			
			保			

科目名	卒業演習 「保育者の社会的役割と保育者となる “私”の在り様を考えるⅡ」		担当教員	伊藤 恵里子		
			担当形態	単独		
テキスト	特になし。	単位数 授業形態	2単位	演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「労働」に関わる諸問題について、その様相をとらえ、自分なりの意見をもてる。 ・フィールドワークを通し、自身の設定した課題について検討し、卒業レポートに書き表すことができる。 ・保育者となる“私”の在り様—保育者として子どもに何を願うのか、子どもとどう向き合いたいのかについて思考を検討できる。 <p>■授業の概要</p> <p>本授業は、保育者が社会的にどのような役割をもち、何が求められているのか、そして保育者となる“私”は子どもに何を願い、どう向き合うのかについて考えることをねらいとしている。そのために、私たちが生きているこの社会—とりわけ「労働」に関わる諸問題について、文献や新聞等を用い、受講生同士で話し合いながらその様相をとらえることから始める。そして、保育者がその周りの社会とどのように関わっているのかを考えたい。</p> <p>授業方法は、文献講読会や討論会を多く取り入れ、必要に応じてフィールドワークを行う。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション、追求する課題の確認</p> <p>第2回 「労働」をとらえる①（保育者の労働環境）</p> <p>第3回 「労働」をとらえる②（労働に関する制度）</p> <p>第4回 「労働」をとらえる③（職場のメンタルヘルス）</p> <p>第5回 保育者と周りの社会①（子どもとの関係）</p> <p>第6回 保育者の周りの社会②（保護者との関係）</p> <p>第7回 保育者の周りの社会③（同僚との関係）</p> <p>第8回 保育者の周りの社会④（地域との関係）</p> <p>第9回 卒業レポートの課題設定</p> <p>第10回 フィールドワーク①</p> <p>第11回 フィールドワーク②</p> <p>第12回 卒業レポート①</p> <p>第13回 卒業レポート②</p> <p>第14回 まとめ（保育者となる“私”の在り様）</p> <p>第15回 学びの成果発表会</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の授業で取り扱うと指定された文献を読み、自身の考えを持って授業に臨むこと。 ・提示した課題に取り組み、期限内に提出すること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時間内に行われる文献講読会、討論会における積極性や発言内容 — 30% ・提示した課題の提出状況及び内容 — 30% ・卒業レポート — 40% 						
参考文献	授業中に適宜示す。		特記事項	フィールドワークにかかる費用は自己負担となる。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修		幼			
			保			

科目名	卒業演習 「『育つ』ということについて考える」 ～育ちの現場に学ぶ～		担当教員	大村 あかね		
			担当形態	単独		
テキスト	資料を適宜用意します。	単位数 授業形態	2単位	演習	開講時期	後期
<p>授業概要</p> <p>■到達目標 保育者として自覚的に子どもの育ちを支え、また自らもかかわりの中で育ち続ける大人となっていく為に、以下のことを目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら設定したテーマについて探求し、「育つ」ということに対する自分なりの考えを持つ。 2. 他者の探求していることに関心を持ち、「育つ」ということへの多様なアプローチを知る。 3. フィールドワークを通して、人が「育つ」ということについての考えを広げ、説明することができる。 <p>■授業の概要 自分の決めたテーマの探求、レポート作成などを進めながら、近接したテーマでの学生同士でグループを組み、フィールドワークを企画して実施し、ふりかえりまでを行います。 レポート作成やフィールドワークを通して様々な「育ち」に触れ、「育つ」ということへのイメージを豊かに持ち、子どもや保護者、同輩や自分自身への前向きなまなざしを持てるようになっていくことを期待しています。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション この授業のねらいについて 第2回 卒業レポートのテーマの明確化 研究計画 FWの希望話し合い 第3回 レポートの書き方、資料集めについて 第4回 フィールドワーク①準備 第5回 フィールドワーク① 第6回 フィールドワーク①ふりかえり 第7回 フィールドワーク②準備 第8回 フィールドワーク② 第9回 フィールドワーク②ふりかえり 第10回 フィールドワーク③準備 第11回 フィールドワーク③ 第12回 フィールドワーク③ふりかえり 第13回 これまでのゼミ全体での取り組みのまとめ 第14回 これまでの個人の取り組みのまとめ 第15回 学びの成果発表会</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ提示された参考資料は、読んで理解した上で臨むこと。 ・自分達が担当するFWに関する準備やふりかえりなどを責任をもって行うこと。 ・提示された課題に取り組み、期限までに提出すること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いへの積極的な参加 — 20% ・フィールドワークふりかえりレポート — 20% ・フィールドワークへのとりくみ、グループ活動での協力姿勢 — 20% ・卒業レポート — 40% 						
参考文献	随時紹介します。		特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークにかかる費用は自己負担となります。 ・卒業レポート、その他レポート等は、全てPCで作成すること。 		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修		幼			
			保			

科目名	卒業演習 「多様な背景をもつ外国人Ⅱ」		担当教員	鶴田真二		
			担当形態	単独		
テキスト	適宜資料を配布します。	単位数 授業形態	2単位	演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の話に耳を傾けることができる。 ・他者の立場から物事を考えることができる。 ・理想とする社会について自分の考えを持つことができる。 <p>■授業の概要</p> <p>本授業では、前期「専門総合演習」で学んだことを基に、フィールドワークを実施します。具体的には、1つは外国人のこどもへの学習支援活動に参加し、外国にルーツを持つこどもと関わります。もう1つは、外国人収容所を訪ね、そこに収容されている外国人と面会します。そして、最後に、自分の身の周りで生きている外国人にインタビューします。これらのフィールドワークを通して考えたことを整理し、「理想とする社会」について自分の考えを卒業レポートとしてまとめます。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 フィールドワーク①事前準備：外国人のこどもへの学習支援活動 第2回 フィールドワーク①実施：外国人のこどもへの学習支援活動 第3回 フィールドワーク①ふりかえり・②事前準備：外国人のこどもへの学習支援活動 第4回 フィールドワーク②実施：外国人のこどもへの学習支援活動 第5回 フィールドワーク②ふりかえり・①②まとめ：外国人のこどもへの学習支援活動 第6回 フィールドワーク③事前準備：外国人収容所 第7回 フィールドワーク③実施：外国人収容所 第8回 フィールドワーク③ふりかえり・④事前準備：外国人収容所 第9回 フィールドワーク④実施：外国人収容所 第10回 フィールドワーク④ふりかえり・③④まとめ：外国人収容所 第11回 卒業レポート作成・フィールドワーク⑤事前準備 第12回 卒業レポート作成・フィールドワーク⑤実施 第13回 卒業レポート作成・フィールドワーク⑤ふりかえり 第14回 卒業レポート作成 第15回 学びの成果発表会</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク（事前準備、実施、ふりかえり）で考えたことを自分で整理します。 ・毎フィールドワーク後に小レポートを作成し、次回までに提出します。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク（事前準備、実施、ふりかえり）での取り組み — 60% ・卒業レポート — 40% 						
参考文献	随時紹介します。		特記事項	必要に応じて追加のフィールドワークを行うことがありますが、その際の費用は自己負担となります。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修		幼			
			保			